

議員研修参加報告

土浦市議会議員 矢口 勝雄
於 全国市町村国際文化研修所

◇ 全国市町村国際文化研修所 主催

「第2回 市町村議会議員特別セミナー」

◇ 受講日：令和5年10月30日～31日

◇ 研修内容

各方面で活躍されている講師4人が登壇をし、それぞれの専門分野での立場からお話をされ、私たち地方議員に求められている課題や知識を得られる講義内容であった。

以下それぞれの講義について感想と内容を記載する。

■ 1 限目 常に更なる進化を目指して ～組織づくりとリーダーシップ～

帝京大学スポーツ局長 スポーツ医科学センター 教授 岩出 雅之 氏

1996年より務める帝京大学ラグビー部監督としての経験を基に、人材育成を中心にお話をされた。全国大学ラグビーにおいて9連覇という偉業を達成した秘訣はどこにあったのか、大きな興味を持って傾聴した。それは、自ら学び成長する「自立型人材育成」にあり、講義の内容もこの点を中心に話された。

動画で見せていただいた、上級生と下級生との役割分担にはとても驚かされた。運動部では下級生が担うことが当たり前となっている掃除などの雑用は、全て上級生が行うルールになっていたのだ。寮生活や練習に慣れない1年生には、練習に集中する環境を整える配慮がされていた。組織はまずは生活面から始まるのだと気づかされた。

・ Z世代を動かすには

- | | |
|----------------|---------------|
| 言われたことしかしない | → Whyなしの指示だから |
| 反論しない、何を考えている？ | → 他にも相談できるから |
| 強く言うと心が折れる | → 身勝手な主張だから |

- ・ 自立 物事に自分で決めたと実感を持って取り組む
- ・ 目的 納得できる理由
- ・ 可能性 自分ができる可能性への挑戦心

- ・ チームカルチャー （カルチャー：耕す）
心理的安全性を担保することが、チームの学習を促進する
- ・ 生産性が高く向上するチームの共通点 → 何より協力し合っている
- ・ 人材育成 3つのポイント
 1. 心理的安全性
 2. 支援（伴走） ⇒ 3 要因が密接に結びつくことで向上していく
 3. 経験学習サイクル

■ 2 限目 今後の地方自治のあり方や議員に求められる役割

法政大学 総長 廣瀬 克哉 氏

複数の自治体において議会基本条例などの制定に関わった経験を基に、課題となっている点を中心にお話をされた。特に新型コロナウイルスのパンデミックは必ず再び起きるとの観点から「今こそコロナ期の振り返りを」すべきと指摘されていた。私もこの3年間の出来事を忘れないうちに実行しておかなければならないと気付かされた。

- 今こそコロナ期の振り返りを
 - ・ リスクコミュニケーションの課題が見えた
 - ・ 市民を情報のタコツボから引っ張り出す
 - ・ 3年余りの経験から何を学び取ったのか
 - ・ 議会の機能継続（議会版 BCP）
 - ・ 議会という機関の機能継続
 - ・ 議会版 BCP の 2つの役割
- 統一地方選で見えた課題
 - ・ 多極化
 - ・ 議員の担い手の変化をどう受け止めるか
 - ・ 議会、議員の役割を多くの人に知ってもらう
- コロナ前からの議会改革の課題はそのまま持ち越されている
 - ・ 議会間のギャップは拡大している
 - ・ 討論の広場
 - ・ 政策作りの当事者であること

- ・ 議員立法は議員独走を促すものではない
- ・ 住民の目に見える議会、理解できる議会
- ・ 自治体の消費者感覚が主流となっている現在
- ・ オーナー感覚は滋養できるのか

■ 3 限目 地方行財政の課題と将来について

元総務事務次官 黒田 武一郎 氏

国の令和 6 年度概算要求の基本的な方針の説明から講義が始まった。総務次官経験者という官僚のトップの話にはとても説得力があり、地方財政との関連性に初めて目を向けることが出来た。先生が示してくれた各種データは、多くが初めて目にするものであったが、そのほとんどが公開されている情報であり、このような数字を積極的に取りに行き、活用していく事も大事なのだと学び取った。

特に今後の課題として気付かされたのは、地方税をもっと高めて行かなければならないという点であった。都道府県の財源偏在の状況のデータを見ると、地域間での財源の偏在がとても大きいことが分かった。人口一人当たりにしても最大で 2.2 倍もの格差が生じている。

日本の将来推計人口における高齢化率についても財源と同様に、地域間での格差が大きく、2040 年（令和 22 年）の予測では、秋田県の 47.5% という数字には衝撃を受けた。東京が地方から人を吸い上げ、地方がどのように安定的に若い人を確保していくのが課題であるとの認識を新たにした。

マイナンバーカードについても貴重な話を聞くことが出来た。今回のマイナンバーカードの交付と導入に関わる騒動がクローズアップされてしまい、持つのか持たないかなどの議論が沸き起こってしまったが、あくまでもカードを持つことは目的ではない、手段である。そして今後の利活用拡大が行政の効率化を進めるためには不可欠であるとの認識を持つことが出来た。

■ 4 限目 食べチョクが考える持続化可能な一次産業に向けて

株式会社ビビッドガーデン 代表取締役社長 秋元 里奈 氏

起業家の立場としての講師ということで、大変興味を持って聞かせていただいた。

食べチョクの開始した背景を聞くと、困っていることを基に必然を形にし、農家の役に立つビジネスモデルなのだなと思った。

またふるさと納税も手掛けているとのこと、参考になる点が多かった。

◆ 全体を通しての感想

今回のような、一つのテーマではなく、様々な講師による様々なテーマでの講義がある研修に参加するのは初めてであった。思いがけず新たな学びがあった有意義な研修であったと思う。

そして今回は、主催者である全国市町村国際文化研修所の計らいで、交流会も行われた。コロナ禍においてしばらく開催されていなかったが、今回がその後初めての開催とのことであった。おかげさまで全国の多くの地方議員と交流することが出来た。特に土浦市と交流関係にある自治体議員との交流があり、夜遅くまで議論を交わすことが出来たのは、大きな収穫であった。オンライン受講という手段もあったのだが、この対面での交流があるからこそ、現地に足を運ぶ価値があるのだと考える。



交流会の様子